

令和2年2月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	議席 番号	氏名	稲葉晃司 議員	1 / 2
発言項目		要 旨		答弁者
1	富士宮市立病院の現状について～地域医療を守るために2020～	<p>(1) 富士宮市立病院の令和2年度の診療体制について伺う。1月22日の議員説明会で使用した資料では令和2年度の各科の常勤医師数が示された。内科2名減、小児科1名増、外科1名減、整形外科1名増、皮膚科1名増、泌尿器科2名増、耳鼻咽喉科1名減、麻酔科2名減、リハビリテーション科1名減、研修医1名増、富士宮市立病院として全体で1名減の64名体制で令和2年度は始まるとのことであるが以下の点について伺う。</p> <p>① 医師が減少する内科、外科、耳鼻咽喉科、麻酔科、リハビリテーション科ではどのような影響が出るのか。特に麻酔科医2名減による手術に及ぼす影響はどのようなのか。また、リハビリテーション科の常勤医師が0名になることによる影響について伺う。</p> <p>② 医師が増加する小児科、整形外科、皮膚科、泌尿器科はどのようになるのか。常勤医が増加したことにより手術への対応等はどの程度改善されていくのか。</p> <p>(2) 放射線治療装置トモセラピーが導入されてから今日までの実績はどのように推移しているのか。</p> <p>(3) 病院事業会計の悪化に伴い一般会計からの繰入金が増額が行われることになった。公立病院の赤字は全国的に慢性化していることで致し方ないとの見方もあるのかもしれないが、今までと大きく状況が変化したことによる危機感を市当局はどのように考えているのか。今の富士宮市立病院は壊れたバルブの状態であり、これを行政運営上どのように穴埋めしていくのか。</p>		市長 副市長 病院長 関係部長
2	ごみダイエツトプロジェクトからごみゼロ作戦へ	<p>1月31日の岳南朝日新聞のトップ記事でごみダイエツトプロジェクト2019の削減実績前年度比500トンの削減実績は評価したい。この取組は3R（リデュース・リユース・リサイクル）を原点とした環境調和型社会づくりのためであり、富士宮市の現実に目を向けてみると限界に近づく鞍骨沢最終処分場の延命化と、老朽化した焼却炉の延命化が課題であることからその対策として燃やすごみをさらに少なくする取組を推進し、焼却灰を少なくすることを主眼としていくつかの観点から市当局に質問する。ごみゼロ作戦とうたったのは、先ごろ豊橋市にて行われた第41回全国都市清掃研究・事例発表会に参加したからであり、その研究事例の中身の濃さに圧倒されるとともにこれらの事例の中からいくつかを導入することにより富士宮市のごみや、し尿処理の合理化、減量化、資源化、エネルギー化が格段に進むはずだと思ったところである。そこで以下について伺う。</p> <p>(1) 冒頭に取り上げた全国都市清掃研究・事例発表会は3日間で137の研究事例の発表が行われたが、環境部の職員はどれほど参加していたのか。また、例年どのように対応しているのか。</p> <p>(2) 当日、富士宮市内の株式会社エコネコルが事例発表をしていた。その内容は焼却灰のうち、落じん灰に着眼し運搬費、選別費、ダスト処理費を加えても落じん灰の買取りを実現できた事例を発表していた。大変興味深かったので後日、同社を訪問いろいろとお話を伺ったとこ</p>		市長 副市長 関係部長

発言 順序	20	議席 番号	17	氏名	稲葉晃司 議員	2/2
発言項目		要 旨				答弁者
		<p>ろ、富士宮市向けの提案を昨年10月に提出済みとのこと。その内容は富士宮市の焼却灰から、55トンの落じん灰を取り出すことができそうとのことであり、この55トンの落じん灰を単純に計算すると主灰の処理委託料が1トン29,700円であるから1,633,500円の委託料削減と55トンの落じん灰の買取り額を合わせると少なく見積もっても200万円以上のコストの圧縮が図られるといったものである。これに取り組むには500万円程度の施設改修費が必要であるが、今後の焼却炉の耐用年数を考えても十分取り組む価値はあると思われるが、この提案を市当局はどのように考えているのか。</p> <p>(3) 1月24日のNHKナビで紙おむつのリサイクルについて大きく取り上げられていた。ご覧になられた方も大勢いたかと思う。ある民間企業の調査では富士宮市の紙おむつごみは年間2,400トン発生していると言われている。高齢化に伴いさらに増えていくことが予想される。テレビでは国内の最大手メーカーがいろいろと説明をしていたが収集する自治体と一体とならなければならないことを強調していた。そこで以下の点について伺う。</p> <p>① 生活環境課のホームページに使用済み紙おむつのごみの出し方が載っているが、実際に便をトイレに捨ててから紙おむつを集積所にとのことであるが多くの市民が実践してると思っているのか。周知の取組が弱いように思えるが市当局の見解はいかがか。</p> <p>② 紙おむつの分別回収、リサイクルが実現できれば環境に対する負荷軽減につながると思われるが、現時点での課題と今後の取組をどのように考えているのか。</p> <p>(4) 生ごみの分別化の議論はこれまでに議会でも取り上げられてきたがなかなか思うようには進まない現状にある。だっくす食ん太くんもよろしいが、生ごみ分別化の実現は大きな環境負荷の軽減につながることは言うまでもない。また、第41回全国都市研究・事例発表会の豊橋市では豊橋市バイオマス利活用センターで下水道に屎汚泥、生ごみを受け入れ処理し、併せて太陽光発電施設を併設し、再生可能エネルギー発電所にもなっていて最先端の取組をしている。一昨年、富士宮市議会で行われたプラントメーカーによる勉強会では、生活排水処理センターにおけるバイオマス発電等の導入についての説明があった。また、地域循環型共生圏構想における民間提案として「生活排水処理センターを再生可能エネルギー創出拠点化に」といったものも出されているとのことであるが、以下の点について伺う。</p> <p>① 市当局は今後の排水処理計画にどのように取り組んでいくのか。</p> <p>② 富士宮市の今後のごみ行政における資源化、エネルギー化をどのように取り組んでいくのか明言していただきたい。</p>				